

助け合いの気持ちを忘れずに

ひとたび大規模な災害が発生したとき、市や消防などの公共機関による支援がいきわたるまでに、一定の期間を要することが考えられます。

このため、いざという状況では、自分の身は自分で守る「自助」や、地域で協力して助け合う「共助」の取組が非常に重要です。

▶ 自主防災組織の活動

災害に備え、地域の協力体制を整えるとともに、その役割分担を決めておくことは非常に重要です。町内会で「自主防災組織」を結成し、防災についての知識を普及させ、周辺の安全点検を実施するなど、地域に密着した自主防災活動を進めていきましょう。

- 「自主防災組織」とは、地域住民が自分たちの地域は自分たちで守ろうという連帯感に基づき、自主的に結成する組織のことです。

日頃から近所の人と話し合い、自主防災組織や町内会の活動に積極的に参加するようにしましょう。

- 市では「自主防災組織等活動育成事業補助金制度」により、自主防災組織及び自主防災組織を結成する予定の町内会に対して、地震、津波、火災、水害等の災害による被害の防止及び軽減を図るため、防災活動に必要な資機材等の購入等に対して補助金を交付しています。



▶ 避難行動要支援者の支援

お年寄りの人、体の不自由な人、乳幼児などの避難には周りの協力が欠かせません。日頃からコミュニケーションをはかり、「いざ」というときには、できるかぎりその人の身になって避難を支援しましょう。

▶ 防災訓練の実施

自主防災組織や町内会で、地域の人たちの参加を呼びかけて防災訓練を行いましょう。また、市では毎年、防災関係機関とともに総合防災訓練を実施していますので、皆さんの積極的な参加をお願いします。定期的な防災訓練により、災害に強いまちにしましょう。



高齢者・乳幼児の場合

- あらかじめ災害時の支援者を決めておきましょう。
- できるかぎり複数で支援をしましょう。

病気やけが人の場合

- 程度に応じて、声をかける、肩を貸す、手を添える等の援助をしましょう。

車いすを利用する人の場合

- 必ず誰かが付き添いましょう。
- 段差があるところなどでは本人と話し合いゆっくりとした対応をしましょう。

目の不自由な人の場合

- まず「お手伝いしましょうか」と声をかけましょう。
- 誘導をするときは、腕を貸してまわりの状況を伝えながらゆっくりと歩きましょう。

耳の不自由な人の場合

- 口頭で伝わりにくいときは、筆談で、状況に応じて手のひらに書きましょう。
- 避難所でも、伝達事項等は掲示板で伝えましょう。

外国人の場合

- 孤立させないように、日本語でもいいので声をかけましょう。
- 通じない場合は、身ぶり手ぶりで対応しましょう。
- 道順は手で示しましょう。

▶ ペットの災害対策 災害時に避難所等へペットと避難するために日頃から以下のことに留意しましょう。

○ ペット用の避難用品などの準備

避難先でペットの飼育に必要なものは、飼い主が用意することが原則です。

【避難時のペット用品の例】 餌・水(5日分以上)、食器、薬、ペットケージ、リード、トイレ用品など

○ しつけと健康管理

日頃からしつけが大切です。また、避難所では免疫力が下がったり、他の動物との接触が多くなるため、各種ワクチンの接種などを行い、ペットの健康と衛生状態を保ちましょう。

○ 鑑札や迷子札の装着

避難時にペットと離れても、保護された際に飼い主の元に戻れるよう迷子札や、犬の場合は鑑札も装着しましょう。